

予約受付中

発売予定 令和2年5月末日

① 予約特価34,800円

※令和2年3月末まで、以降定価36,000円
(税別・送料別)

お支払いは安心な納品後の後払い(郵便局振替用紙)

② 先着100名様限定

山田無文老師御染筆色紙(複製)
「福聚海無量」



福聚海無量 (複製) (福聚まるごと海のごとくに無量なり)

南太平洋の島々において若き生命を捧げて散華された戦死者の慰霊に、そして又南海の島々の人々の友好親善の悲願の為に、席のあたたまる暇もなく戦跡を駆け巡り、不惜身命の菩薩行を続けられておられる山田無文老師が、この度妙法蓮華経普門品(観音経)の中から撰んで、本大会のために特に揮毫されたのがこの色紙であります。お経の中に具一切功德(すべてのよき働きを身にそなえて)、慈眼視衆生(もろびとを凝視したもう)、福聚海無量(しあわせは海のように無量である)、是故応頂礼(この故につつしみて礼拝するがよい)とありますように、非常に柔和なごらからかと言えば女性的なお優しい観世音菩薩のお姿を、文字で表現されたのがこの四句であります。この世に生を受けた誰しもが願望して止まないもの——それは幸福であります。私にはみ仏さまを礼拝し、そのみ心を身につけて実践してゆくことによりて無量の福德を頌ら戴けるのであります。

永久保存版

現代の危機と仏教復興

——人間として人間を考える——



三十三回忌記念

山田無文老師講演記録

山田無文老師が語る

仏法とは、般若心経とは

般若心経講話

CD全12巻

USS出版

山田無文老師の貴重な肉声の記録



※写真はイメージですので実物とは異なります。



(レイテ海域慰霊)

お申込み方法 ハガキ・FAX・ネットまたは電話で、お申込みください。

申込書

山田無文老師講演記録
般若心経講話
CD全12巻
全巻()セット
を申し込みます。

御住所 〒

御寺院名(団体名)

御住職名(御芳名)

TEL

FAX

FAX 0120-482-472・TEL 0120-482-471

御記入後このままFAX送信可能です。

ホームページのお問い合わせフォームからもご予約いただけます。

■発売 仏教図書出版 USS出版

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-50-1
ウインド大塚ビル
TEL0120-482-471 FAX0120-482-472
http://www.uss-shuppan.com

はじめに

本日から六日間にわたり般若心経のお話をせよということで、お経の中で一番短いお経であり二六二文字であります。題号を入れますと二七二文字になります。真言宗の方では上に佛説と二字お付けになります。すると、二七四文字になります。広く各宗に読まれるのがこの般若心経であります。お読みにならないご宗旨は日蓮宗と浄土真宗の方が、お読みにならんとお思います。

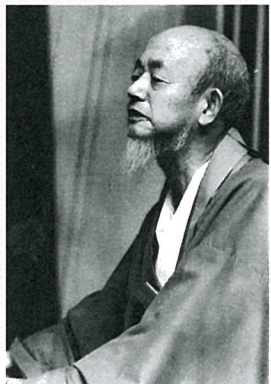
般若心経は「空」ということ、大般若経六百巻を煎じつめますと般若心経二六二文字になります、般若心経を煎じつめまると「空」の一字になるとお思います。

般若心経には色即是空空即是色と唱えてございますが、平たく申しあげますならば、「空」のわかることが真諦門、色がわかることが俗諦門であります。真俗不二、仏法の真理と現実の生活とは二つではないひとつでなければならぬ。これが大乘仏教の秘蔵であります。

日蓮宗、浄土真宗にしても大乘仏教でありますから、「空」という真諦門を表に出さずに、現実の生活を表に出されまると、南無妙法蓮華経ということになり、南無阿彌陀仏ということになります。思いますが、そのお題目、お念仏の出でくるその裏には「空」がなければ、真諦門がなければ念仏を唱えるその心が「空」でなければならぬ。その心境はやはり「空」が出てこなければならぬと思っております。

昭和四十七年二月七日（初日挨拶より）

山田無文



山田無文（やまだ むもん）略歴

明治三三年	七月十六日	生
大正十四年		臨済宗大学（現・花園大学）卒業。
昭和四年		妙心寺専門道場。
		天龍寺専門道場で 関精拙に参じ、のち嗣法する。
昭和二四年		花園大学学長（一九七八年迄つづく）
昭和二八年		妙心寺山内霊雲院住職
昭和三九年		神戸・祥福寺住職並びに専門道場師長
昭和四七年	二月七日から十二日	禅文化研究所所長
		「般若心経講話」講演
昭和五三年		臨済宗妙心寺派管長（一九六三至）
昭和五七年		花園大学名誉学長
		管長並びに学長退任後は、霊雲院に住す
昭和六一年		『般若心経』（禅文化研究所）刊行
昭和六三年	十二月二十四日	遷化

発起人として 推薦協力します

元臨済宗妙心寺派管長

臨済宗妙心寺派霊雲院住職



河野 太通



則竹 秀南

般若「空」からの呼びかけ

無文老師は晩年、良く色紙の墨蹟を所望されると、大きく「福」と書いて、その下に小さく「わしゃいらぬ」と書き添えられていた。福は、もう充分に頂いているので、貴方へあげる。というのである。こんな福徳圓滿と思はれる老漢にも法律家を目指していた若き頃、人生の指針を失う癒し難き苦悩があられた。それは、論語の

「訴を聴くこと、我猶お人の如し。

願はくば訟之無からしめんか」

との出会いであった。法律家になることの意義を失った。「ねぐらを失った野良犬の如く」人生の目的、意義を求めてさ迷う時、チベットから帰国したばかりの河口慧海師が講じる「入菩薩行」の一節に出逢う。

「世界中を牛の皮で覆うならば、世界を跣で歩かれるが、それは不可能である。しかし自分の脚に六寸の靴をはけば、世界を皮で覆ったと同じことになる。世界を理想の国にするのは、おそらく不可能であろう。しかし、われわれが菩提心を起し、忍辱の靴をはくならば、世界は理想の国になる。凡夫はただちに仏になるのである。」

この聖語の邂逅した無文青年は、道を失い、さ迷う暗黒の山中に、燃えて輝く一灯を発見したのである。しかし、往年の放浪生活からであろう胸を病み、医方にも見放される身となって、故里に身を横たえる夏の一朝、そよ風にさそわれて、縁側に這い出る。庭の南天の葉が風にゆれている。そのさまが目映るや、空気の有ることを知り、碎身せんばかりの撃打に逢う。そしてうたわれる。

大いなるものにいだかれあることを

今朝吹く風のすがしさに知る

般若空の体解であろうか。

爾來、不思議に体調徐々に快復、事後、通常人の三倍と言われる為人度生の日々が展開されたのである。現代の危機を洞察し、これを憂えた。

没後三十三年を経て、この無文老師の、あの警咳に、再び接することが出来ることは有難い。老漢のこの生涯が、そのまま般若空の展開であったと思われ。多くの方々に、般若「空」の妙韻に耳を傾けて頂きたい。

龍門庭裡 河野太通

収録内容

第一日・はじめに「般若心経」とは（CD①②）

現代の危機を救うのは高度の道徳と宗教だと思っております。二十一世紀は宗教の時代が来ると予測される。人間の精神の原点は空である。釈尊の昔から今日まで変わらない真理が「経」でございます。

第二日・摩訶般若波羅蜜多「摩訶」について（CD③④）

「摩訶」の二文字がわかれば般若心経の全てがわかる。この「摩訶般若波羅蜜多」こそ、人類のあらん限り、変わらない真理でございます。どうして自我意識を捨てるかという点、自我意識を捨てて三十二ヶ月以前の自分になる、十六ヶ月以前の自分になる、零になる。これが仏教の修行でございます。この経験がないと仏教は解りません。

第三日・観自在菩薩一切苦厄。（CD⑤⑥）

大乘佛教は菩薩道であります。観自在菩薩は所謂、観音様であり、古い翻訳では「観世音菩薩」と謂われる。般若の知恵がわかるならば、身如法身としていただける。

第四日・舍利子く不増不減。（CD⑦⑧）

「摩訶」、偉大なる知恵すべてを我として受け止め、知恵と慈悲が生まれたままの人生が幸福でなければならぬのであります。お互いが生まれた時からいただいております。清浄無垢、摩訶般若を自覚することが人間として完成される。

第五日・是故空中く究竟涅槃。（CD⑨⑩）

「無眼耳鼻舌身意」、目のあることも、耳のあることも、鼻があることも、舌もあることも忘れております。意識のあることも忘れております。私共は始終こうして物を見ますけども物を見るときは目を忘れてはいます。

「苦集滅道」鎌倉時代に北条時宗の招待で支那から日本へ来られました仏光国師という偉い方がございます。鎌倉の円覚寺の御開山様でございます。まだ、支那におられる頃に、揚子江より南方でしょうか、南宋の能忍寺に居られたときに元が攻めてきました。

第六日・三世諸佛く菩提沙婆訶。（CD⑪⑫）

陀羅尼のいう唱えごとは仏教のお釈迦様がお説き下さいました五千四十余巻の経典を煎じると般若心経二六二文字の小さなものになる、その二六二文字を煎じつめると「空」という一字になる、その「空」が摩訶般若でございます。これが陀羅尼でございます。たった一字だけでもあらゆる災難を防ぐ、あらゆる迷いを断ち切るものでございます。

何物にも拘らない、力強い逞しい意識で生きていくことが出来る。そうわかることが「摩訶般若」であります。

「菩提心を起こす」――質疑応答――

